様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ５ 月 １６ 日現在

機関番号：３４３０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３８０２４９

研究課題名（和文）公平な再分配に関する実験研究

研究課題名（英文）An Experimental Study of Fair Re-distribution

研究代表者
小田　秀典（ODA, Sobei Hidenori）

京都産業大学・経済学部・教授

研究者番号：４０２２４２４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：公平な再分配についての実験研究である．経済学の視点（当事者のもつ公平観）からだけでなく哲学の視点（公平な第三者のもつ公平観）から，経済実験を設計して，日本と中国で実験を実施した．実験は，様々な再分配において，各人の意見（何が公平か）と各人のもつ他者の意見の推測（何が公平と他者は思うと思うか）を明らかにした．特に注目されるのは，多くの被験者は，客観的にそうであるか否かから独立に，自分の意見は，全ての被験者にも支持されるか，そうでなくとも多数派であると信じていたことである．

研究成果の概要（英文）：What redistribution was considered to be fair is studied in the laboratory in Japan and China. Experiments were designed by the economist's viewpoint and the philosopher’s: it was examined what redistribution was considered to be fair by the interested parties and by the third parties. Subjects (students), who acted interested parties or non-interested re-distributers, were asked their opinions “what redistribution do you think fair?” and their guess at other subjects’ opinions “what redistribution do you think others would think fait?”. A noteworthy finding, which was observed in every scenario, is that most subjects answered, whether it was the case or not, either that their opinions would be shared by all or that their opinions would be shared by a majority.

研究分野：実験経済学

キーワード：公平な再分配　他者の意見の推測

１．研究開始当初の背景

近年，経済学でも哲学でも実験研究が盛んになされている．研究代表者は，2010 年に実験経済学と実験哲学の国際会議を世界に先駆けて組織して以来，両分野にまたがる研究を進めている．本研究は，その一環として，哲学実験の経済実験化と国際比較実験によって既得権と公平な再分配についての人々の考え方を知ることを目指す実験経済学研究として開始された．

２．研究の目的

本研究の主目標は，人間の公平観とそれに関連する意思決定の理解を深めることである．特に，既得権があるときの公平な再分配を当事者および第三者がどう考えるかを知ることを主目標とした．これは，経済主体は所与の公平観をもつという既存の経済学の前提を乗りこえる試みであり，公平概念の現実的な内生的理解を得ることで，様々な既得権下の再分配問題に直面している現代社会に貢献することを目指した．

3．研究の方法

2014 年度．当初計画では第三者の公平感を知るための経済実験を日本と中国でする予定であったが，予備実験の結果，もっと基礎的な副作用に対する意図の帰属に関する哲学実験の必要性があることが分かった．そのため，過去に実施した海外実験を再検討し，基礎的な哲学実験を設計し国内で実施した．

2015 年度．前年度の Knobe 効果（悪い副作用を意図的と見做す一方で，良い副作用を意図的と見做さない傾向）についての実験結果を国際会議で報告するとともに（学会発表①と②），京都産業大学の資金を得て，国際会議「経済学と哲学における意識と意図」を主催し（学会発表③），当研究課題についての報告および意見交換をした．

2016 年度．公平な再分配についての実験研究を，日本および中国で実施した．当初の計画では曖昧であった最初の分配の決定を，前年度の国際会議での意見交換に基づいて，(a)偶然，(b)危険選好，(c)努力に応じて決定される場合について調べた．初期所得は，(b)においては各被験者が安全な選択肢または危険な選択肢を選ぶことで（後者を選ぶと確率的に），(c)においては各被験者がジクソーパズルに取組むことで（成績に応じて）決定され，再配分は（再分配される対の）両人が再分配案を示し，いずれかの案が確率的に採用された．

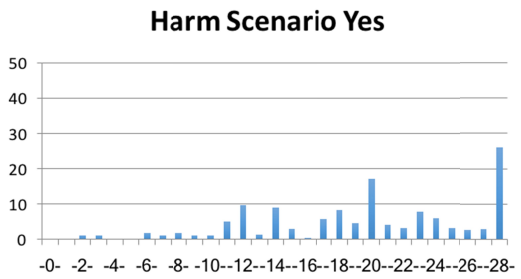
研究代表者は，以上の実験研究を周艶（実験経済学）および笠木雅史（哲学）とともに進めるとともに，研究分担者とともに，人間の公平観と意思決定を定式化し，その相互作用が経済全体の動学にどう影響するかを理論と実験に基づいて研究するための基礎研究を進めた．

４．研究成果

初年度の実験と最終年度の実験に共通する特徴として，2 点があげられる．

A:自分の意見（私は…と思う）と他者の意見の推測（他者は…と思うと私は思う）に相関があり，しかもその分布が二峰である．すなわち，ほとんどの被験者は，全員が自分と同意見と推測するか，過半数の人たちが自分と同意見と推測した．

下図は，ある問題に対する意見を求める問「あなたは，これは…だと思いますか？」に対し Yes と答えた被験者に，「この問に対し，今日の実験参加者（28 名）のうち何人が Yes と答えると思いますか」と他者の意見の推測を尋ねたときの回答（7 回の合計）を表す．約 1/4 の被験者は，全員が Yes と答えると推測し，残りの 3/4 の被験者の大部分は，過半数（平均 19 人）は Yes と答えるだろうと予想した．この傾向---かなりの被験者が「全員が自分と同じ判断をするだろう」と推測し，残りの被験者の大部分が「異なる意見の人もいるだろうが，自分と同じ意見の人が多数派だろう」と予想すること---は，別日本でも中国でも，Yes と答えた人たちにも No と答えた人たちにも，すべての問題に共通に観察された．



B:日本においても中国においても，定性的性質は同じ（たとえば，もっとも支持される再分配案は，両国に共通）であったが，定量的にはかなりの差（たとえば，もっとも支持される再分配案の割合は，両国で差がある）が認められた．

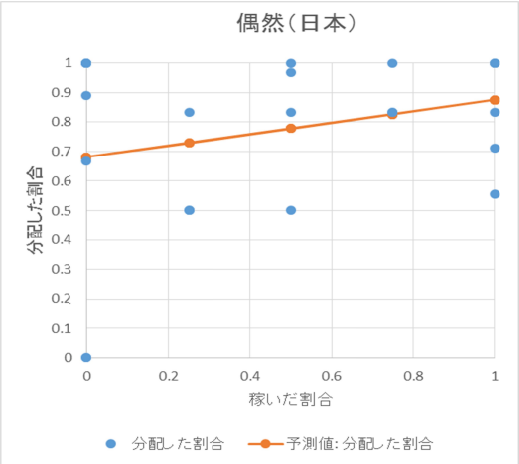
以下に，2016 年度の実験結果を示す．被験者数が日中両国で合計 144 名であるので，統計的に確実に主張するためには追加実験が必要であるが，以下が観察された．

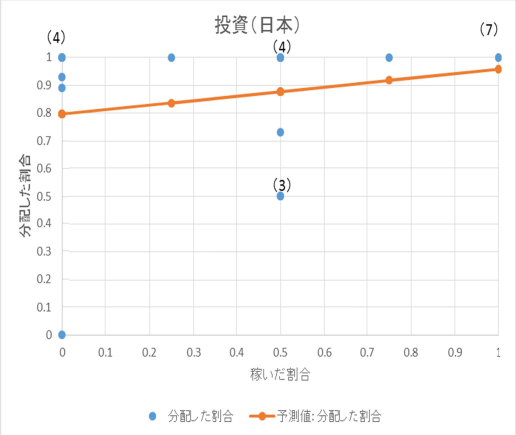
- (a), (b), (c)の 3 つの設定すべてにおいて，x（初期所得における自身への分配率）が大きいほど，y（再分配における自身への分配率）は大きい．

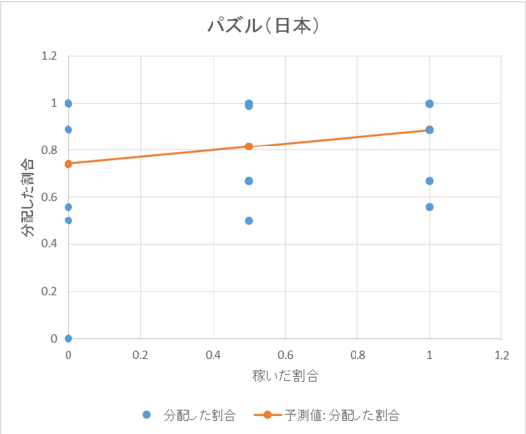
- 日中両国ともに，y は，(a)，(b)，(c)の順で小さい．

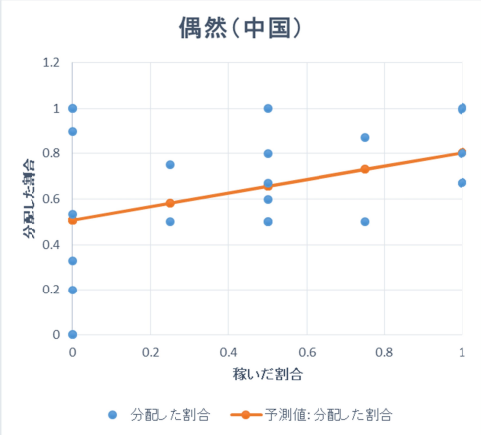
- 対応する設定ごとに日中の結果を比べると，y の傾きは中国における方が大きく，y の切片は日本における方が大きい．

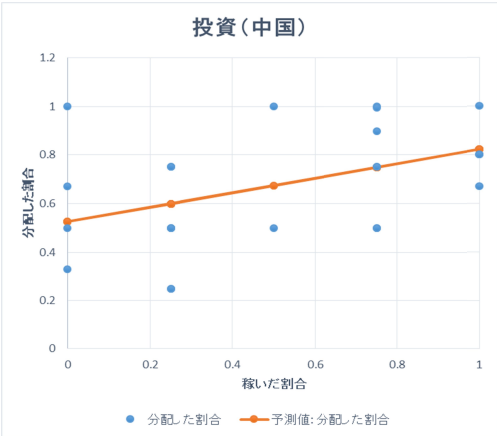
以下に，日本における（a：偶然），（b：投資），（c：パズル）の実験結果を示す．

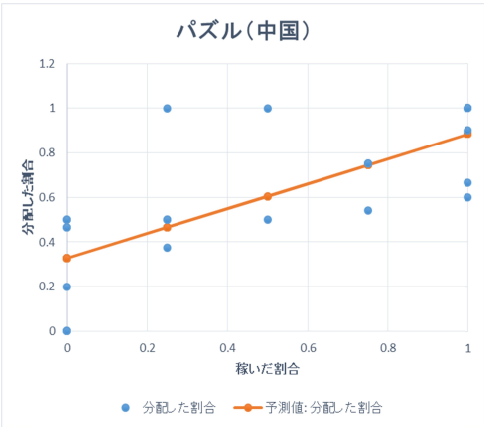












5．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）
本研究計画の成果は論文として確定されていない（研究代表者と研究分担者は，研究期間中に本研究課題と問題意識を共有する複数の査読論文を発表しているが，本研究計画に直接に関係するものではない）．上述のように，追加実験を行ってできるだけ早く論文として纏めるつもりである．

〔学会発表〕（計 3 件）

① Yan Zhou, Masashi Kasaki and Sobei H. Oda (12-13 December 2015): “An Experimental Economics Approach to The Knobe Effect” presented at *Consciousness and Intention in Economics and Philosophy*, Kyoto Sangyo University, Kyoto, Japan.
② Yan Zhou, Masashi Kasaki and Sobei H. Oda (29-30 June 2015): “The Knobe Effect reconsidered: Uncertainty, Expectation and Relativity in the Judgment of Intentionality” presented at *the 6th Conference of Experimental Philosophy Group UK: Joining Forces of Philosphy and the Empirical Sciences to Tackle Social Injistices*, University of Nottingham, Nottingham, UK.
③ Masashi Kasaki, Yan Zhou and Sobei H. Oda (29-30 June 2015): “The Knobe Effect in Japanese: How Intentionality Judgements are (not) Affected by Cultural Differences” presented at *the 6th Conference of Experimental Philosophy Group UK: Joining Forces of Philosphy and the Empirical Sciences to Tackle Social Injistices*, University of Nottingham, Nottingham, UK.

６．研究組織

(1)研究代表者

小田　秀典（ODA, Sobei Hidenori）
京都産業大学・経済学部・教授
研究者番号：40224240

(2)研究分担者

小川　一仁（OGAWA, Kazuhito）
関西大学・社会学部・教授
研究者番号： 50405487

西野　成昭（NISHINO, Nariaki）
東京大学・大学院工学系研究科・准教授
研究者番号： 90401299

(3)研究協力者

笠木　雅史（KASAKI, Masashi）
名古屋大学・教養教育院・特任准教授

周　艶（ZHOU, Yan）
京都産業大学・経済学部・特約講師